度会町における
令和元年度　全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

度会町教育委員会
令和　元年　９月

本年４月１８日に、小学校第６学年及び中学校第３学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要について、度会町の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果や今後の取組を以下のとおりまとめました。

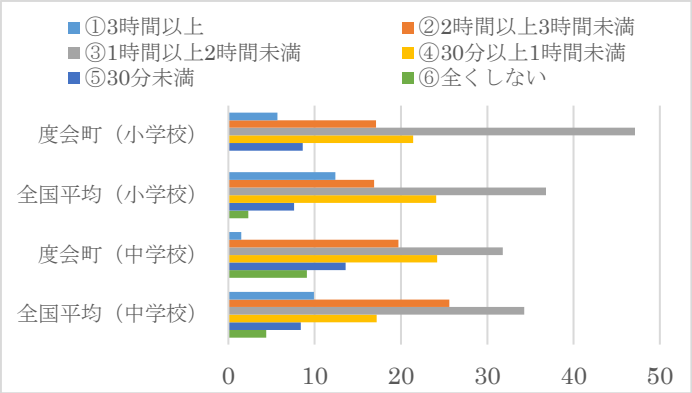
なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することが目的です。

しかしながら、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面です。このことを今回の調査においても十分考慮し、今後の当町の教育の一層の充実を図ってまいります。

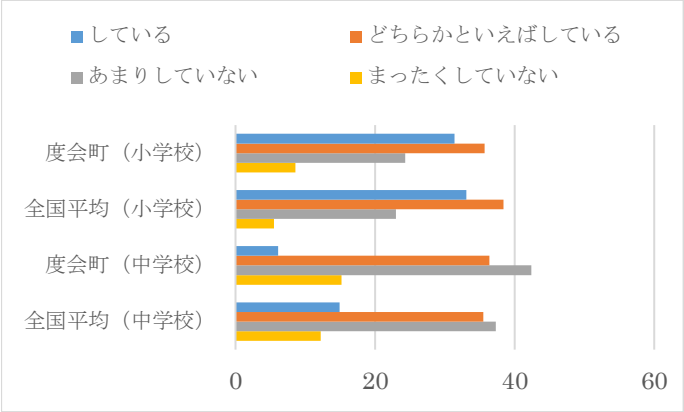
1、全体概要

■学習習慣等の状況

＜学校の授業以外に、平日どれくらいの時間、勉強しますか＞



＜家で自分で計画を立てて勉強していますか＞



■各教科平均正答率の状況

＜小学校＞　　（%）

平均正答率	国語	算数
度会町	60	64
三重県	64	67
全　国	63.8	66.6

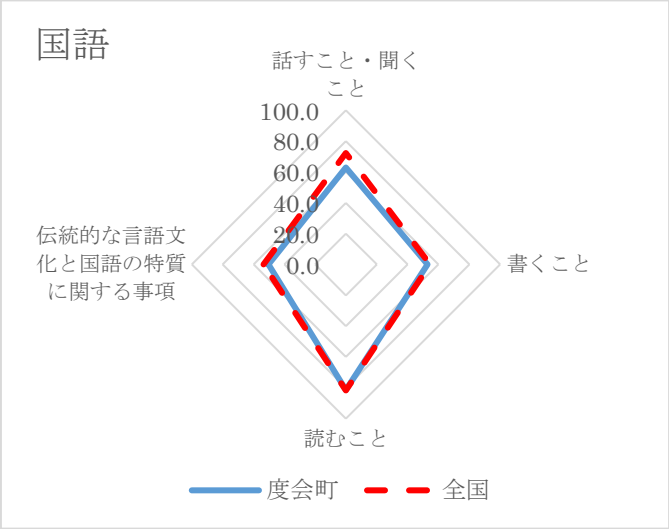
＜中学校＞　　（%）

平均正答率	国語	数学	英語
度会町	66	53	51
三重県	72	60	56
全　国	72.8	59.8	56.0

2、教科別概要

【1】小学校国語

■領域別平均正答率の状況



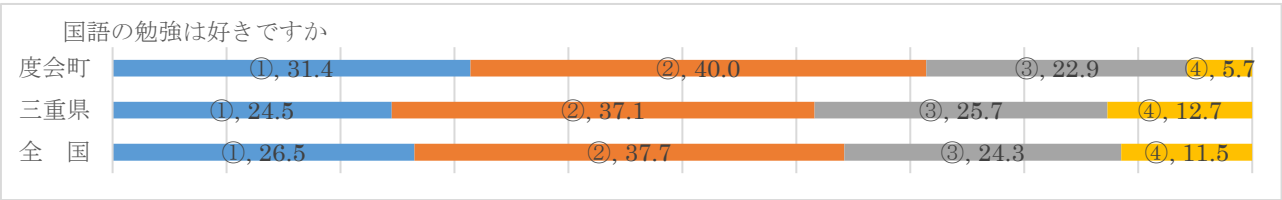
■調査問題結果からみる傾向

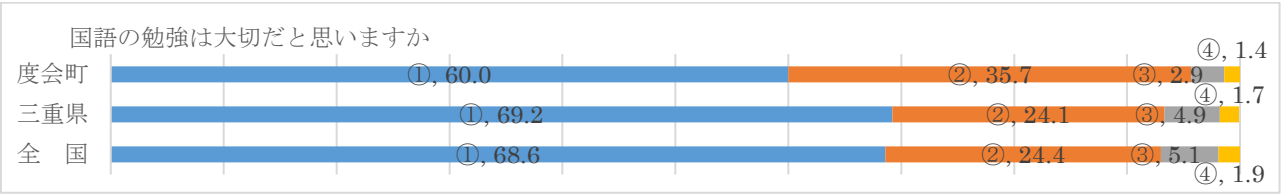
●「文と文をつなぐ言葉には「そこで」を使います。書き直した一文目の終わりの五文字と、　二文目の「そこで、」に続く五文字を書きましょう。」という問題の正答率が全国平均より 10 ポイント以上低い結果となっています。意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題がみられます。（町 35.7%　県 47.3%　全国 47.8%）

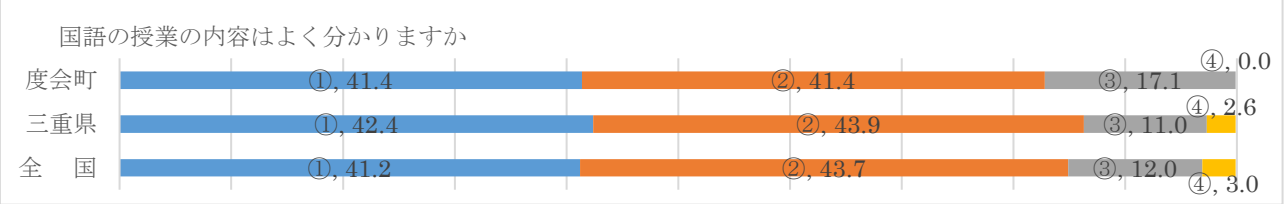
●話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するなど、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる力では、問題によって差が見られます。（町 67.1%　県 81.8%　全国 81.3%）

●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む力を見る問題では、全国、県平均を上回っており、概ね出来ていることが分かります。（町 78.6%　県 77.7%　全国 75.9%）

①　当てはまる　②どちらかといえば、当てはまる　③どちらかといえば、当てはまらない　④当てはまらない







■全体的傾向と課題

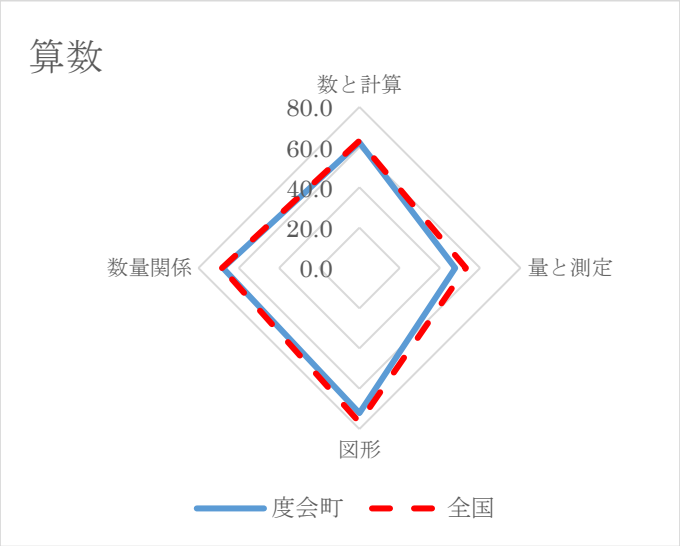
・基礎的・基本的な知識・技能は、概ね身についています。

・文脈に沿って接続語「そこで」の働きを正しく理解し、意味のつながりや文末表現を考えて、二

文に書き直す力については、習得できていない児童が多く、話し手の意図を汲む力、自分の理解との差異を確認する力が弱いことから、コミュニケーション力にも影響し、日常生活でも予期せぬトラブルに発展することも考えられます。

【2】小学校算数

■領域別平均正答率の状況



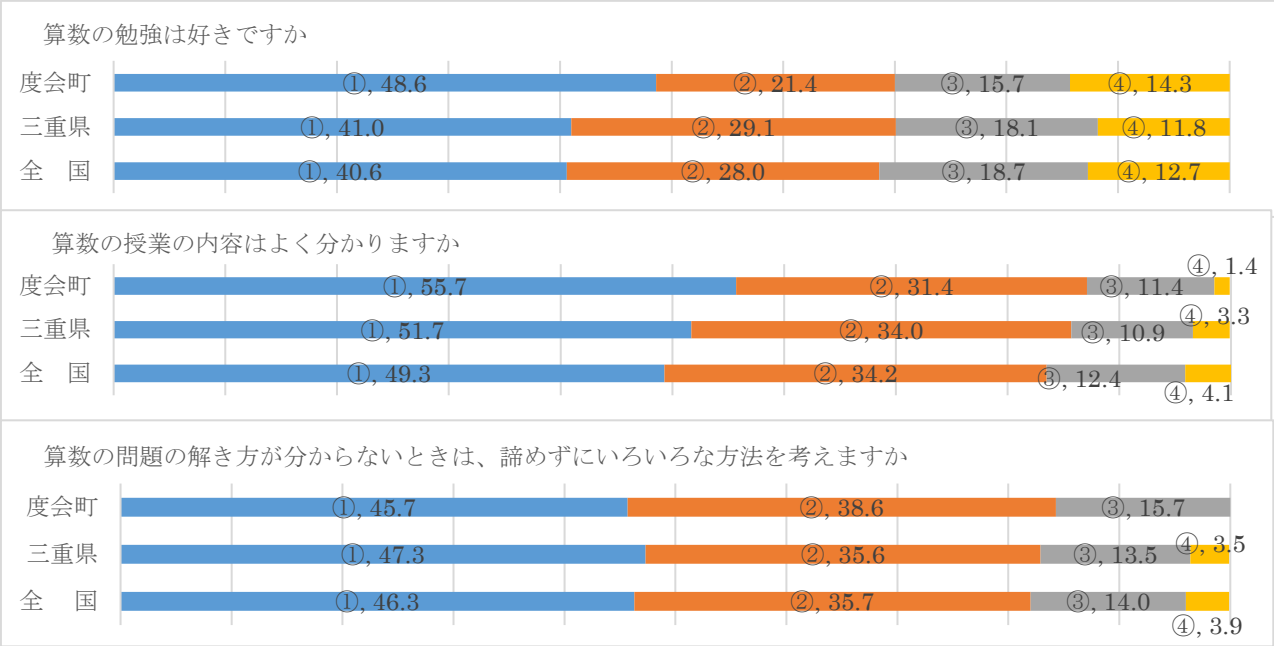
■調査問題結果からみる傾向

●二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることができる形を選ぶという問題の正答率が低く、図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を形成することに課題がみられます。（町 52.9%　県 59.9%　全国 60.3%）

●減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く問題から、示された図形の面積の求め方を理解できておらず、また、その求め方の説明を記述する力にも課題がみられます。（町 31.4%　県 40.1%　全国 43.9%）

●加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることはほとんどの児童が出来ており、概ね理解出来ています。（町 70.0%　県 66.0%　全国 60.1%）

①　当てはまる　②どちらかといえば、当てはまる　③どちらかといえば、当てはまらない　④当てはまらない



■全体的傾向と課題

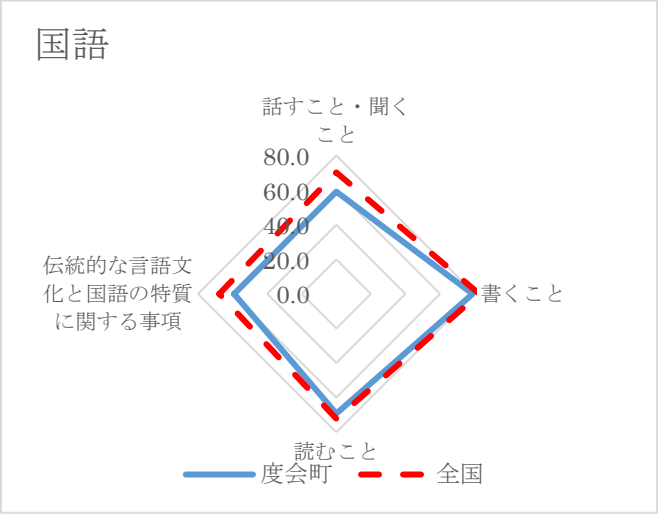
・図形問題について正答率が全国平均よりも下回っています。手がかりを見つけて、既習事項と関連付けて考え、答えを導き出す力に課題があります。

・計算においては、概ね理解が出来ており高い正答率になっています。

・算数の授業が好きかという問いに対して、全国平均よりも多くの児童が肯定的な回答をしています。また、算数の授業の分かりやすさについても、多くの児童が肯定的であるのに対し、正答率は下回る結果となっており、児童の理解しやすい授業内容になっているか、児童の実態に即した指導になっているかなど、授業運営の見直しが必要です。

【3】中学校国語

■領域別平均正答率の状況



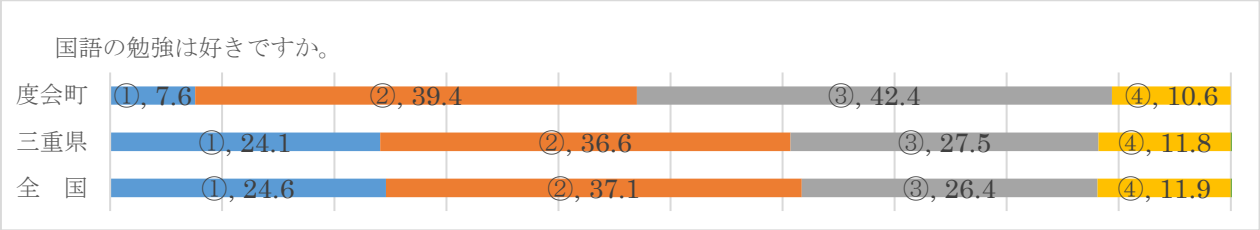
■調査問題結果からみる傾向

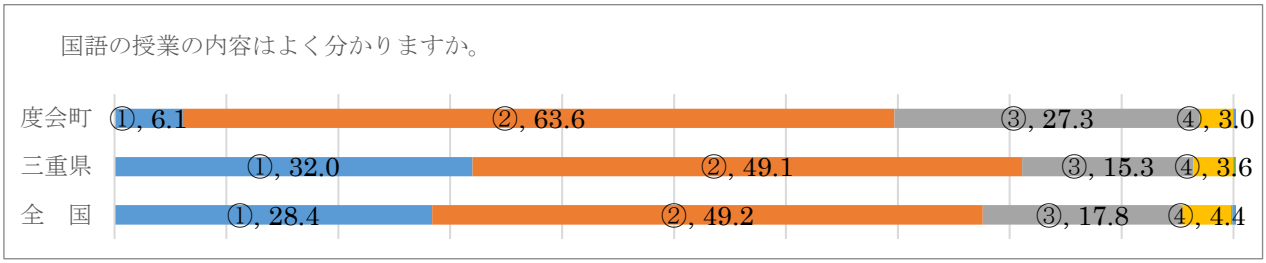
●文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを持つ力、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える力ともに課題がみられる結果となりました。

●封筒を書くという日常生活的な知識についても身についておらず、全国平均より 9.8 ポイント低い正答率となっています。（町 47.0%　県 53.4%　全国 56.8%）

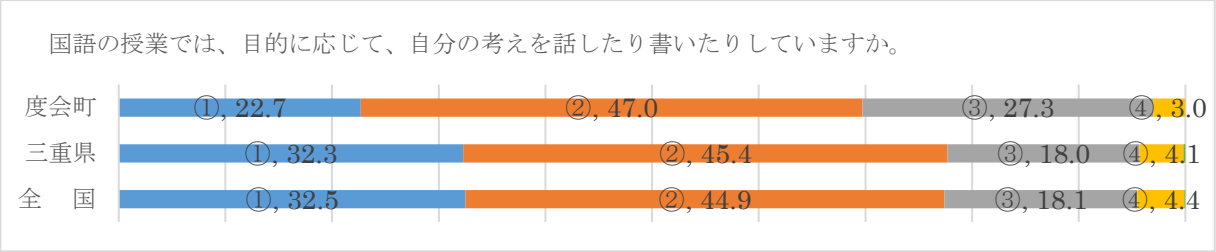
●話合いの話題や方向を捉える力（町 66.7% 県 77.9%　全国 80.4%）、相手に分かりやすく伝わる表現についての理解（町 54.5% 県 67.6%　全国 69.7%）、伝えたい事柄について、根拠を明確にする力（町 71.2%　県 77.2%　全国 77.8%）においても全国平均を下回り、相手に正しく伝える力が身についておらず、表現する力に課題がみられます。

①　当てはまる　②どちらかといえば、当てはまる　③どちらかといえば、当てはまらない　④当てはまらない





①当てはまる　②どちらかといえば、当てはまる　③どちらかといえば、当てはまらない　④当てはまらない



■全体的傾向と課題

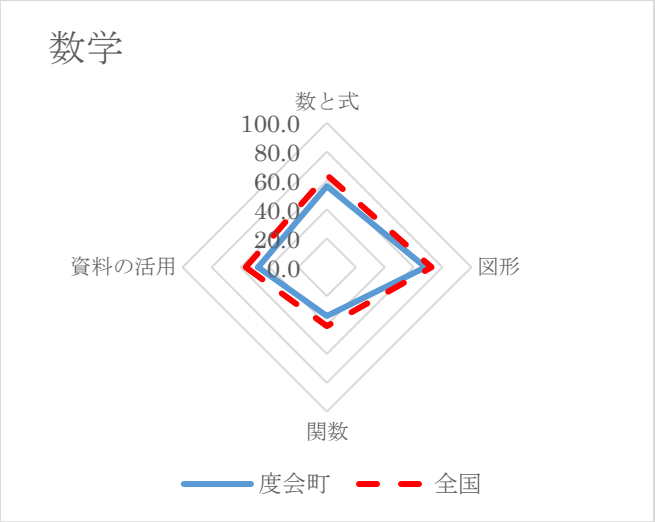
・封筒の表書きなどの一般常識、日常生活など社会の基本的な力の習得という観点からも厳しい結果といえます。

・話す力、聞く力をみる問題で全国平均より低い結果となっています。また、相手に分かりやすく伝える表現力をみる問題でも低い結果がでており、コミュニケーション力の弱さが課題といえます。

・「国語の勉強が好きですか」という問いに対して、「当てはまる」と回答した生徒が、全国・県平均は 24%を超えているのに対して、当町はわずか 7.6%でした。また、「国語の授業内容はよく分かりますか」という問いに対して、全国・県平均は 28～32%であるのに対して、当町は 6.1%でした。全体を通して課題と捉え、積極的な学習補充と授業運営の見直しが必要と考えます。

【4】中学校数学

■領域別平均正答率の状況



■調査問題結果からみる傾向

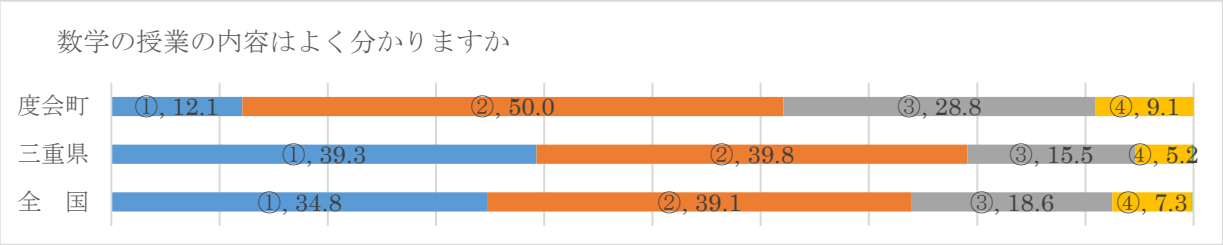
●数の集合と四則計算、正負の整数の予測、簡単な連立二元一次方程式などに課題がみられ、基本計算において全国平均より正答率が 10 ポイント以上下回る結果となっています。

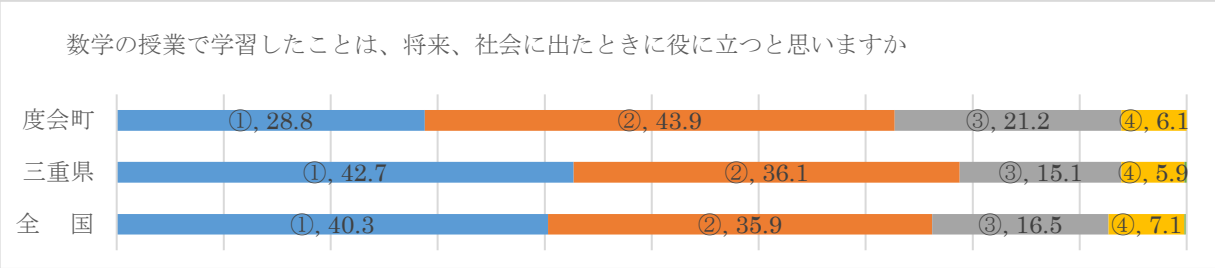
●確率を求める文章問題では、全国平均より 22.8 ポイント正答率が下回り、計算技術に至るまでの、問われている内容を理解することに課題が見られます。

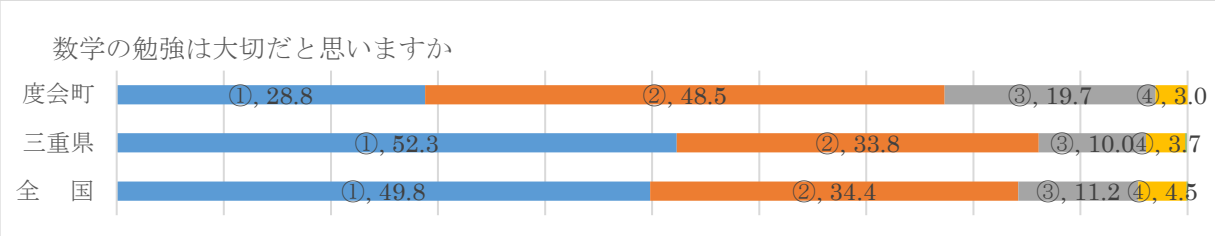
●関数の問題では、グラフ上の点 P の y 座標と点 Q の y 座標の差を事象に即して解釈する力に課題が見られ、全国平均より 10 ポイント以上下回る結果となっています。

●その他の分野も含め全体的に正答率が全国平均、県平均を下回る結果となっています。

①　当てはまる　②どちらかといえば、当てはまる　③どちらかといえば、当てはまらない　④当てはまらない







■全体的傾向と課題

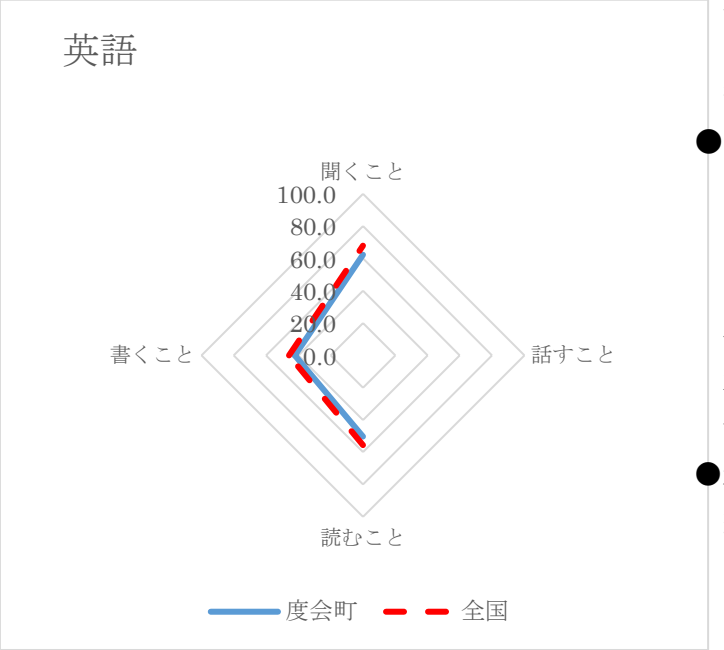
・基礎的な計算、簡単な「連立方程式」の正答率が全国平均を下回る結果となっており、基礎的・基本的内容の確実な定着を一層強化する必要があると言えます。

・同様に、「確率問題」での、全国・県平均よりも 22.8 ポイント低い数値から、極めて厳しい学力結果となっています。さらに、「関数問題」「資料から最頻値を読み取る力」「総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈する問題」においても、全国平均より 10 ポイント近く低い結果から、数学科全体を通した基礎的学力の定着に課題がある生徒の割合が高いことが読み取れるため、対象生徒を中心とした学び直しも含め、徹底した基本問題からの丁寧な学力補充の体制を構築する必要があります。

・「数学の授業内容はよくわかりますか」という問いに対して、「当てはまる」と回答した生徒は、全国・県平均 34～39%に対して、当町は 12.1%でした。「どちらかと言えば当てはまる」を加えても、全国平均 73.9%、県平均 79.1%に対して、町 62.1%と 10 ポイントほど低くなっており、「わかる授業づくり」への改善・改革の必要性が高いと言えます。

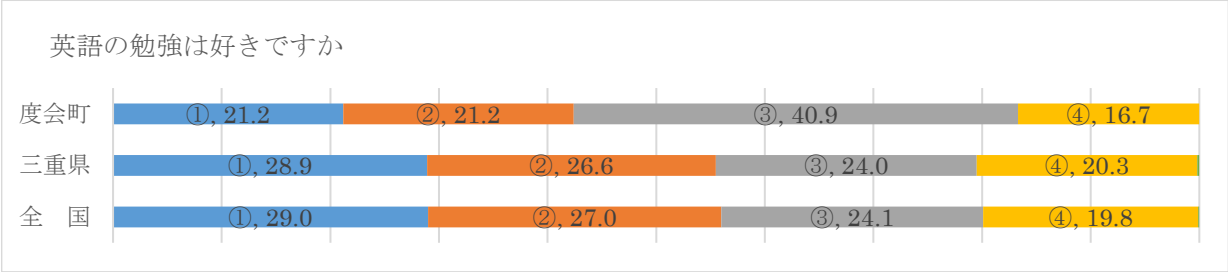
【5】中学校英語

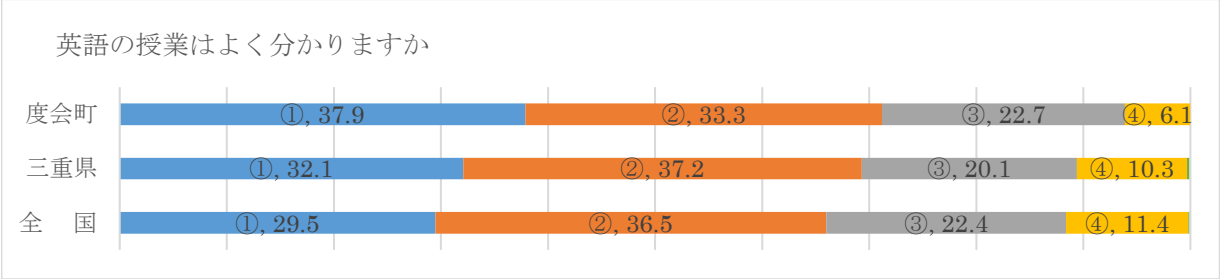
■領域別平均正答率の状況

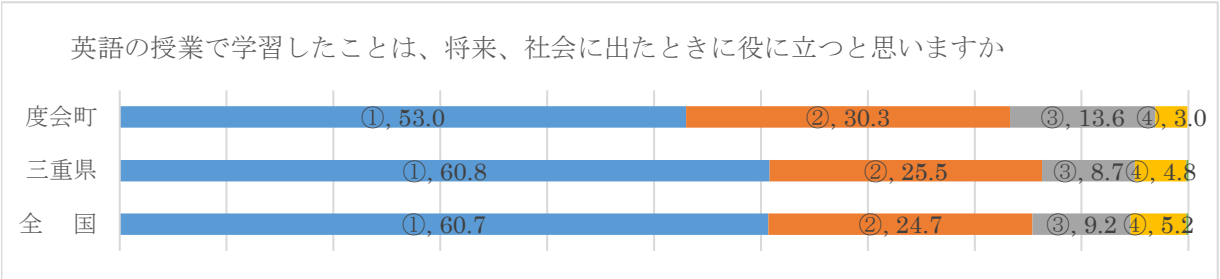


■調査問題結果からみる傾向

- 「英語を聞いて内容を理解する力をはかる問題」において、全国平均を下回る結果となっています。リスニング力に課題がみられるので、授業の創意工夫が求められます。
- 「まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解する問題」では、全国平均を上回っているものの、文章中の特定した部分を読み取る問題では、問われている内容を理解することに少し課題がみられることから、問われている内容が理解できるように指導上の工夫が望まれます。
- 新しく実施された「話すこと」調査については、最終的な結果発表はされませんでしたが、自校採点による県の比較では、平均正答率を上回る結果が出ています。







■全体的傾向と課題

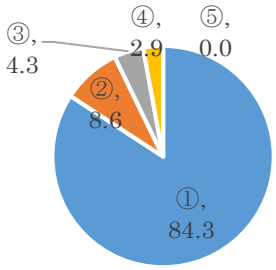
・リスニングにより必要な情報を聴き取る力、理解する力を見るほとんどの問題で全国・県平均を下回る結果が出ています。
・文章を読み取り理解する力は概ねできています。一方、その内容について自分の考えを示す内容では、無回答率が全国平均 27.9%、県平均 26.0%に対し、当町の無回答率 45.5%と約２人に１人が解答できないという結果でした。
・「英語の授業はよく分かりますか」という問いや、英語や外国への関心を問う質問に、肯定的な回答が多いのに対して、調査問題では、英語全体で全国・県平均より５ポイント低い正答率となっており、生徒の意識と学力の定着とに隔たりが出ています。

3、児童生徒質問紙調査の概要

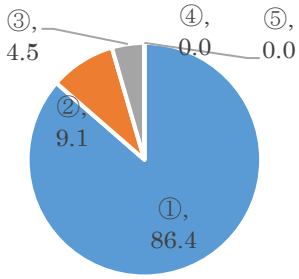
【1】生活習慣

■小学校　　■中学校

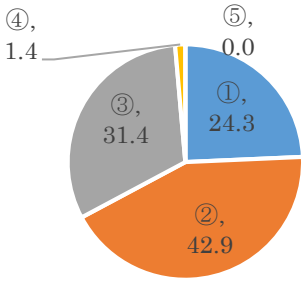
朝食を毎日たべているか



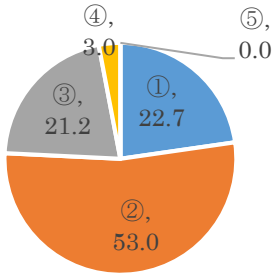
① している
② どちらかといえば、している
③ あまりしていない
④ まったくしていない
⑤ 無回答



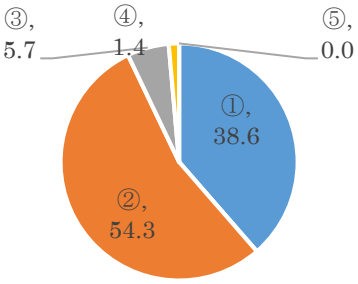
毎日同じくらいの時刻に寝るか



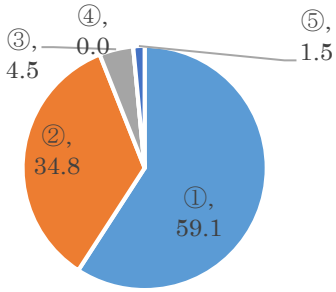
① している
② どちらかといえば、している
③ あまりしていない
④ まったくしていない
⑤ 無回答



毎日同じくらいの時刻に起きるか



① している
② どちらかといえば、している
③ あまりしていない
④ まったくしていない
⑤ 無回答



度会町の小・中学生の状況です。毎日朝食を食べている児童生徒の割合は高く、ほとんどの子どもが朝食をきちんと食べていることがわかります。また、毎日同じくらいの時刻に寝ている子ども

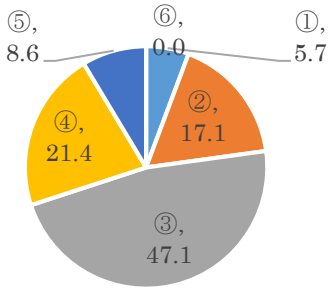
が６～７割、同じくらいの時刻に起きるという児童生徒が９割を超え、ほとんどの子どもが規則正しい生活習慣を身につけていることが分かります。しかし、約 1 割強の児童生徒が朝食を食べずに登校しているという実態があります。

不規則な生活は自律神経に影響を与えます。朝食を食べないことは集中力の欠如につながり、学力・体力の低下にも影響します。家庭における子どもたちへの指導、サポートが重要となってきます。

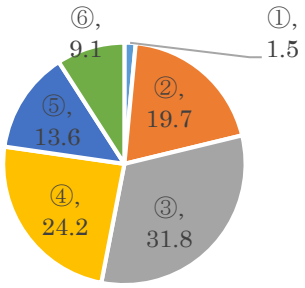
【2】家庭学習

■小学校　　■中学校

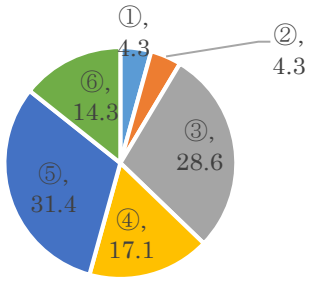
平日の勉強時間（学習塾・家庭教師含む）



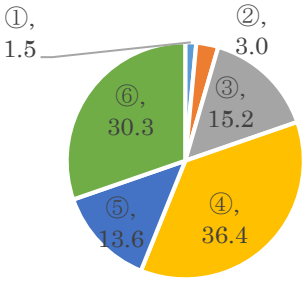
①3 時間以上
②2 時間以上 3 時間未満
③1 時間以上 2 時間未満
④30 分以上 1 時間未満
⑤30 分未満
⑥全くしない



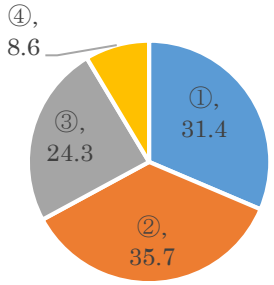
平日の読書時間（参考書、漫画・雑誌を除く）



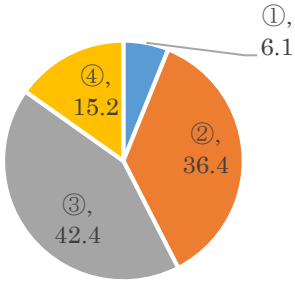
①　２時間以上
②　１時間以上２時間より少ない
③　30 分以上１時間より少ない
④　10 分以上 30 分より少ない
⑤　10 分より少ない
⑥　全くしない



自分で計画を立てて勉強していますか



①している
②どちらかといえば、している
③あまりしていない
④全くしていない



平日 1 時間以上勉強している小学生の割合は 69.9%（全国平均 66.1%）で、全国平均を上回り、中学生では、平日 1 時間以上勉強している生徒の割合は 53%（全国平均 69.8%）で、全国平均より低い割合となっています。さらに「全くしない」生徒が中学生で 9.1%（全国平均 4.4%）と高い傾向にあり、自主的に学習に取り組む姿勢に課題があります。

家庭における読書時間も小中ともに 30 分より少ない子どもが過半数を超えています。特に、中学

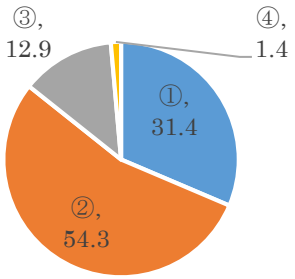
3 年生では 80.3%（全国平均 73%）という結果になっています。小・中学校ともに、読む力、書く力（表現する力）に課題があることから、活字に触れる機会を増やしていく取組を進めていく必要があります。

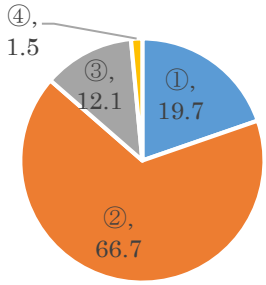
【3】学校生活・規範意識

■小学校　　■中学校

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

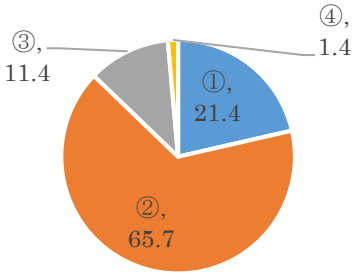
①当てはまる
②どちらかといえば、当てはまる
③どちらかといえば、当てはまらない
④当てはまらない

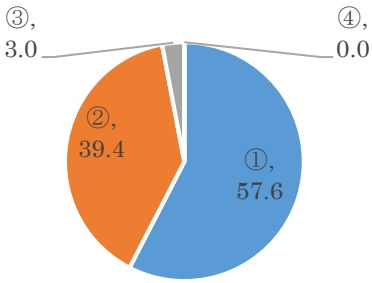




学校のきまり（規則）を守っていますか

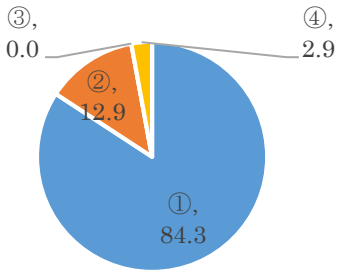
①当てはまる
②どちらかといえば、当てはまる
③どちらかといえば、当てはまらない
④当てはまらない

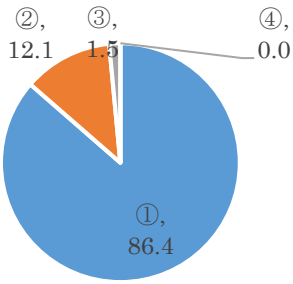




いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

①当てはまる
②どちらかといえば、当てはまる
③どちらかといえば、当てはまらない
④当てはまらない





学校のきまりや、いじめに対する意識など、児童生徒の規範意識は比較的高い傾向にあります。

また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という問いに対して、小学校では 8 割以上が、中学校では 9 割を大きく超えて肯定的な回答をしています。このことから、教師と児童生徒の間に交流があることが伺えます。今後も、声掛けだけでなく、交流ノートの活用など子どもたちの声に耳を傾けていく取組を積極的に継続していく必要があります。

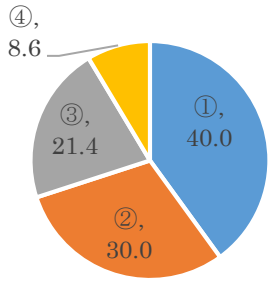
いじめについて、ほとんどの児童生徒がいけないという回答をしているなかで、小学校で 2.9%の児童が、中学校で 1.5%の生徒が、いじめに対して肯定的な回答をしています。昨年は、小学校 6.0%・中学校 7.2%が肯定的な回答でした。減少しているとはいえ、安心して学校生活を送るためにも、**心の教育を一層充実させる必要があります。**

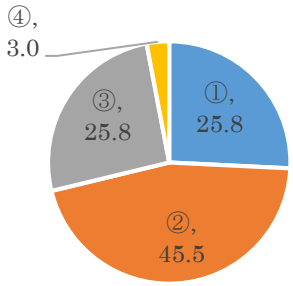
【4】地域、社会に対する興味・関心

■小学校　　■中学校

地域の行事に参加していますか

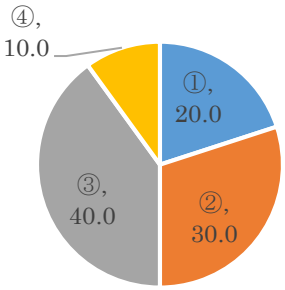
①当てはまる
②どちらかといえば、当てはまる
③どちらかといえば、当てはまらない
④当てはまらない

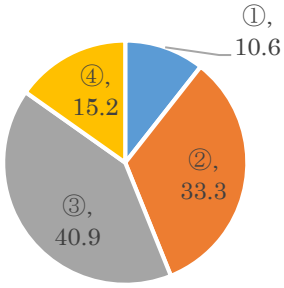




地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

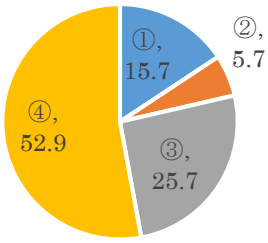
①当てはまる
②どちらかといえば、当てはまる
③どちらかといえば、当てはまらない
④当てはまらない

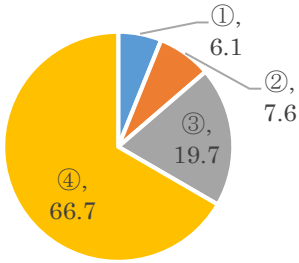




新聞を読んでいますか

①ほぼ毎日読んでいる
②週に 1～3 回程度読んでいる
③月に 1～3 回読んでいる
④ほとんど、または全く読まない





地域の行事に参加している児童は 70.0％（全国平均 68.0％）、生徒は 71.3％（全国平均 50.6％）と、小学生よりも中学生の方が地域との関わりが深い結果となりました。例年、小学生のほうが高い数値となっており、全国と比べても中学生は 20 ポイント近く高い割合となっています。

新聞を読んでいる割合は、昨年度同様、小中学生とも全く読まない割合が高いことから、活字離れの進行がうかがえます。また、近年多くの媒体から情報を得ることができ、それぞれの家庭において新聞の捉え方も変わりつつある実態が読み取れます。

そのため、小・中学校では、校外学習や体験活動の後に、個人新聞を作成する活動を計画的に取り入れ、効果的な紙面づくりや情報の活用の技能を身に付ける指導の充実を図る必要があります。

4、学校質問紙調査の概要

全国学力・学習状況調査では、児童生徒を対象としたもの以外に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する『学校質問紙調査』も実施されました。児童生徒に対する調査結果と併せて分析し、各学校の指導方法の工夫、改善に繋げていきます。

教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか

＜小学校＞あまりしていない　　＜中学校＞どちらかといえば、している

新しい学習指導要領が示され、学習内容の系統性がより重視されています。新しい学習指導要領の内容も踏まえ、学年や教科の枠にとらわれず、 チーム学校として、同じ教育理念のもと統一された指導に努めています。

この項目に対して肯定的な回答をしている学校は、小学校で全国平均 93.7%、中学校で全国平均 88.1%にのぼり、例年高い数値となっています。

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

＜小学校＞あまりしていない　　＜中学校＞どちらかといえば、行った

基礎学力の習得に課題が見られたため、基礎的･基本的な知識･技能の習得に重点を置いて指導方法の工夫を行ってきましたが、今後は、習得･活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫に努めていきます。

算数・数学の授業を中心に習熟度別に少人数指導を実施し、個々のつまずきや課題への対応ができるようにしています。児童生徒の関心や意欲を引き出すため、教科の特性や学習内容に応じて、ICT 機器等の活用並びにホワイトボードを使ったグループ学習を取り入れています。

校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか

＜小学校＞週に 2～3 日程度　　＜中学校＞ほぼ毎日

学校長は、授業の時間に限らず、登下校や昼休みの時間、時には児童生徒がいない玄関や教室など、校内の様子を直接見て確認します。管理職として学校全体を把握し、児童生徒の頑張りや困り感の把握、教職員一人ひとりの指導に対するアドバイスを行うことへの責任があります。

保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか

＜小学校＞よく参加している　　＜中学校＞参加している

保護者による奉仕作業や地域の方による除草作業等の美化活動、地域のボランティアによる登下校の見守り、ＰＴＡ役員・委員による学校行事への協力など、多くの活動に参加していただいています。これら

の活動は、子どもたちの健やかな成長に大きく繋がっています。
　また、体育祭や文化祭などの学校行事だけでなく、学校開放や授業参観に参加していただく方が増えています。部活動の大会やコンクールでもたくさんの保護者の方が応援していただく姿が見られます。

将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

＜小学校＞どちらかといえば、行った　　＜中学校＞どちらかといえば、行った

　キャリア教育に際し、小学校では「自己肯定感を高めながら、夢や希望を持って努力し、意欲をもって学び続ける児童の育成」を推進目標としています。中学校では「望ましい職業観の育成とともに、卒業後、そして将来を見据えた進路選択・進路決定が主体的にできる生徒の育成」を目標に、3年間を通して系統的にきめ細かく指導を行っています。

平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

＜小学校＞行った　　＜中学校＞行った

　全国学力・学習状況調査は、対象学年の児童生徒のためだけに実施されている調査ではなく、全ての児童生徒、全ての学年の教職員の授業工夫・改善のために実施される調査です。結果分析にあたっては、各校および町教育委員会の分析に加え、度会郡指導主事の分析指導も受けながら丁寧に行いました。
　その上で、課題の克服に向け、県教育委員会学力向上アドバイザーによる学校支援や外部講師を招聘した校内研修、また教職員間での模擬授業の実践などにも取り組んでいるところです。

5、全体的な課題

学力調査からみえる課題

学習した知識・技能を日常の事象・現象、また社会的問題に当てはめて考える力の育成

- **初歩的基礎学力の習得に一部課題がみられます。個に応じた学習と反復学習で確実に身に付けていく指導が必要です。**
- **既習の知識や技能を活用し、主体的に取り組めるような身近で、かつ解決の必要性を感じるような課題設定が必要です。**
- **めあて・振り返りにより予想や仮説、結果の見通しを持たせることで、主体的な探究心を伸ばすような授業づくりが一層求められます。**
- **自分の考えを整理し、他者に伝えたり、書いてまとめたりする技能を身に付ける指導の充実が一層求められます。**

学習状況調査からみえる課題

主体的に学習に向かう姿勢と生活習慣の見直し

・授業や家庭学習において、与えられた指示以外に、自ら課題を持ち、学習に向かう姿勢に課題が見られます。
・生活習慣の見直しや、家庭学習の習慣化をすすめるため、家庭との連携を強化していく必要があります。
・地域や社会で起こる出来事や問題に関心が低い児童生徒が多いです。学習の題材として適宜取り入れ、興味関心を喚起する話題に触れる機会の拡充が必要です。
・自己肯定感が低めの児童生徒に対し、授業に限らず、学校行事や学級活動を有効に活用し、主体的な意欲喚起につながる指導が求められます。

6、今後の取組・支援

【1】教育委員会が行う取組・支援

今回も全国学力・学習状況調査に際し、各学校では調査後一人ひとりの解答用紙をコピーし、自校採点を行いました。一つ一つの解答を示された類型ごとに分類し集計する作業は、かなりの時間と労力が必要でした。それでも、採点することで、一人ひとりのつまずきを把握し、解答を細かに分類することで、問題を深く研究し、学習指導要領で求められている力の理解を深め、その上で、これまでの授業を振り返り、早期から授業の工夫・改善に向け取り組んでいます。

町教育委員会では、こうした各学校の取組を支援するとともに、様々な情報提供を行い、指導主事の派遣を通じ、授業改善や校内研修がより効果的に行われるよう指導を行います。

■具体的事項

・少人数指導等、個に応じたきめ細かな指導が行えるよう引き続き支援します。
・特別な配慮を必要とする子どもへのサポート体制や、教育相談体制を一層推進します。
・教職員研修や研究授業の指定を通じ、教職員の資質向上ならびに授業力向上を図ります。
・町教育委員会と小中学校の担当者で組織する度会町学力向上推進委員会等を通して、9 年間を見通した教育の充実に努めます。
・度会町ふるさと歴史館等の学習施設の充実を図るとともに、各種事業を通じた地域学習に取り組みます。
・児童生徒の主体的な学習意欲を育むため、地域学習や体験活動など各種取組を支援します。
・計画的な図書整備や専門員配置など、読書環境の整備を継続して行います。併せて、読書推進に向けた各種事業にも積極的に取り組みます。
・地域の方々に、学校教育活動に一層興味・関心をもってもらい、学校とともに児童生徒を育み、見守っていただくため、学校ならびに教育委員会は積極的に情報を発信していきます。
・地域と連携した取組や体験活動を行うことで、ふるさとを大切にする心を育みます。

【2】家庭や地域へお願いしたいこと

学校では、子どもたちが将来社会人として自立するための基礎となる「学ぶ力」を育んでいます。「学ぶ力」とは、「なぜ？」「知りたい」「調べてみよう」と、問題を見つけ出し、学んだ知識を活用しながら、見通しをもって、その解決を図る力のことをいいます。この育成の成果は、各ご家庭や地域の皆さま方の協力によって、何倍にも高めることができます。

子どもたちは、認められ励まされることで、「見守られている」という安心感や、「頑張って良かった」という達成感、充足感を抱き、それが自信と今後の「学ぶ力」につながります。良いところは真っ直ぐ伸ばし、課題と考えられるところは、改善に向け、私たち大人が手を携え導いていくことが必要です。子どもたちの豊かな成長と、自ら学ぶ力を育むため、子どもとの関わりを振り返り、まずは一歩踏み出してください。

■保護者の皆さまへ

★「早寝早起きをする」「朝食をきちんと食べる」等毎日の規則正しい生活リズムが大切です。きちんとした生活習慣が身につくようにしましょう。

★テレビ、ゲーム、携帯電話の使用は、ご家庭でしっかり話し合い、ルールを作りましょう。

★子どもの学習に目を向け、“頑張り”を見逃さず、応援してあげてください。自己肯定感を高め、何事にも意欲的に向かう姿勢を育てましょう。

★学校や身のまわりの出来事など、子どもと話す時間をもち、しっかり聴いてあげてください。

★地域や社会の出来事に目が向くよう、新聞やニュースをもとに子どもに働きかけることが大事です。

★地域の行事やＰＴＡ行事には、子どもと一緒に参加しましょう。

★家族の一員として、家事への協力を呼びかけ、責任感と自立心を育てましょう。

★読書をとおした学びを応援してください。本を通じた共通の話題を持つことや、図書室に立ち寄るなど、保護者の方も一緒に楽しみませんか。町民の皆さまが利用できる図書室として、町内には、中央公民館図書室（棚橋）、地域交流センター図書室（棚橋）、南伊勢高校度会校舎図書館（大野木）があります。

教育のねらい…子どもの「自立」と「共生」
“子どもの可能性を真っ直ぐ伸ばしましょう”

中学生「独自性」
学習の仕方を振り返り、自分にあった学習計画や方法を検討し、取り組めるよう見守りましょう。

小学校 5.6 年「見届け・励まし、自主性を」
学習への目標を持たせ、自分のペースでじっくりと取り組めるように励まし、自主性を育てましょう。

小学校 3.4 年「認めて・ほめて、やる気を」
自分からやろうという気持ちを持たせ、十分にほめ、最後までやり遂げさせましょう。

小学校 1.2 年「寄り添う」
寄り添って学習させることで、わかる楽しさを実感させましょう。

■地域の皆さまへ

・子どもたちは、元気にあいさつをしているでしょうか。学年が上がると、照れもあるのか、声も小さくなりがちですが、地域の方との触れ合いは、まず「あいさつ」からです。恥ずかしがっているようなら、一声掛けてあげてください。

・子どもたちは、地域での遊びや行事、交流活動から、社会性を身に付けていきます。良い行いは褒め、危険なことやマナーに反することには、毅然とした対応をお願いします。
・少子化により兄弟姉妹や地域内の同世代と関わる機会が減っています。また、生活のスタイルも変わりつつある中で、子どもが学校や家庭以外で、他者と関わる機会が今後一層減っていくことが危惧されます。特に、異年齢者と関わる大切な機会は、今後いっそう地域の中で求められることになります。温かい見守りと声掛けをお願いします。